

令和 7 年度
大阪市立上福島小学校
運営に関する計画



令和 7 年 4 月

大阪市立上福島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

1 現状

児童数が年々増えこれまで行ってきたきめ細やかな指導から子ども達の自主性を高める指導へのシフトチェンジが必要になってきている。子ども達は年下に優しく仲よく遊ぶ姿がよく見られ、気持ちの優しい子が多いものの自分の思い通りにならないとやる気をなくす子も一部にいる。家庭教育力は高く、帰宅後に習い事や塾に行くことが多く、時間に追われ気持ちに余裕のない子もいる。自由な発想やその考えを生かす力の育成を目指している。

2 課題

指示のあったことをきっちりとすることはできるが、困難な場面で失敗を繰り返しながらも危機を回避するような力が弱い。認められないと頑張ることができない子が多く、評価されることが意欲や動機づけになっている。読書好きの子どもが多いので、本から学んだことを生きる知識として活用できるよう働きかけている。自分の思ったことを全力で突き進むような突破力を身に着け、自身の良さを伸ばす経験を重ねていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査の「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートの「将来の夢や目標を持っている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を各学年で65%以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートの「SDGsの考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を各学年で70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査の「学校の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を50%以上にする。
- 令和7年度末の本市調査の「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する6年生の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートの「目標を持って体育の学習に取り組んでいますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の75%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を各学年で 65%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。
- 令和 7 年度の児童アンケートの「SDG s の考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を各学年で 70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答をする児童の割合を 50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度の児童アンケートの「目標を持って体育の学習に取り組んでいますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 75%以上にする。
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立上福島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ○令和7年度の児童アンケートの「将来の夢や目標を持っている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を各学年で65%以上にする。 ○令和7年度の小学校学力経年調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。 ○令和7年度の児童アンケートの「SDG sの考えを理解し、自分にできることをしようとしていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を各学年で70%以上にする。 ○令和7年度の児童アンケートの「自分の役割を理解し、すすんで行動している」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・日々の授業や学級活動、なかよし班活動で優しさや思いやりの気持ちを育て、自分のよさに気づいたり、仲間や他学年からも認められたりする場を設定する。	
指標 ・全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがありますか。」の最も肯定的な割合を65%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・社会科、生活科などの日々の授業や特別活動等で、働く人や職業について学んだり、自分を見つめ、将来の夢や目標について考えたりする機会を設ける。	
指標 ・児童アンケートの「将来の夢や目標を持っている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合をそれぞれの学年で65%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】 ・運動場で安全に遊ぶように、きまり（休み時間の運動場や講堂）を守ることの大切さを朝会等でも話をし、各学年に応じて考え、安全で楽しい活動のあり方をみんなで考える。	
指標 ・小学校学力経年調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。	

<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none">・係や当番活動、異学年交流等の取り組みを通して自分の役割を自覚し、進んでみんなのために役立とうとする気持ちを育てる。そして、日ごろお世話になっている地域の方や家族に対して感謝の気持ちを表す機会を設ける。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・児童アンケートの「自分の役割を理解し、すすんで行動している」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

大阪市立上福島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を 50%以上にする。 ○令和 7 年度の本市調査の「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する 6 年生の割合を 90%以上にする。 ○令和 7 年度の児童アンケートの「目標を持って体育の学習に取り組んでいますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。 ○令和 7 年度の児童アンケートの「図書館を学習でいかせていると思う」に対して肯定的な回答をする児童の割合を各学年で 85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・友だちと話し合う活動を実施し、自分の思いや考えを伝え合う力を育成する。 ・友だちの思いや考えを聞き、「取り入れる」「答える」「質問する」「比べる」などができるように意識を高める。 ・どの学習活動でも「振り返り」を取り入れるようにする。「振り返り」や話し合いの際には、聞く視点を明確に提示する。	
指標 ・全国学力・学習状況調査の「学校の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を 50%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 4 だれ一人取り残さない学力の向上】 ・栽培活動や食育を通して自然に興味を持ち積極的に観察したり調べたりする。 ・実験を通して、理科の学習に親しむとともに、ICT を有効に活用し自分の興味をさらに深め積極的に発信していく態度を育成する。	
指標 ・本市調査の「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する 6 年生の割合を 90%以上にする。	

<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育において、単元ごとの目標や毎時間のめあてを、教師から伝えたり児童に目標を考えさせたりする機会を設けることで、児童が目的意識を持って体育の学習に取り組めるようにする ・前年度の新体力テストの結果を振り返り、体育の授業作りを工夫していく。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の児童アンケート「目標をもって体育の学習に取り組んでいますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。 	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に3回程度、学校図書館や市立図書館の集団貸し出しで、本を学習に活用する機会を設ける。 ・様々な教科において、児童が調べたり、関連する図書を読んだりすることができるように図書を活用する。 ・図書館活用年間計画を作成し、学年ごとの活用事例を全体で共有する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「図書館を学習でいかせていると思う」に対して肯定的な回答をする児童の割合を各学年で85%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>後期への改善点</p>	

大阪市立上福島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 75% 以上にする。 ○ICT 支援員研究校の取り組みを活用し、情報活用能力のさらなる向上を目指し、発表場面での ICT を効果的に活用できる力をつけ、児童アンケートの「1 人 1 台端末を発表場面でうまく使えましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。 ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 85% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX】 ・ICT を活用して、児童が自分の考えを共有したり、学習到達度を確認したりできるようにする。 ・「心の天気」を活用して、児童の心の状態を自身で記録したり、教員がすぐに把握したりできるようにする。	
指標 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 75% 以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX】 ・学習者用端末を活用し、児童自身の思いや場面に合った方法で資料を作ったり、プレゼンテーション等を用いて発表する機会を設定する。	
指標 ・発表場面での ICT を効果的に活用できる力をつけ、児童アンケートの「1 人 1 台端末を発表場面でうまく使えましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・学打ち、4 部会を定期的に行い、会議の分担を進めることで、会議にかかる時間を短縮する。 ・事前提案や文書提案を定着させ、短時間でも内容の濃い話し合いができるようにする。 ・学年裁量の会議や会議未設定の曜日を作り、休みを計画的にとれるようにし、ゆとりをもって仕事に取り組める時間を作れるようにする。	
指標 ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 85% 以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
後期への改善点